

(仮称)石巻市複合文化施設基本設計業務プロポーザル選定委員会講評

委員長 本杉省三

1. 総評

発災から5年半が過ぎ、ようやく石巻市でも各種インフラが整い、新しい街・風景が誕生しつつあります。しかし一方では、いまだ目処も立たないままの状況も多く散見されます。石巻市では、2つの中心的文化施設を一度に失い、市内の文化活動も大きな打撃を受けてしまいました。東日本大震災最大の被災地である石巻市にとって、復興は言い尽くせない忍耐と時間の掛かるプロセスですが、これまでの幾重にも及ぶ困難さを乗り越え、再び未来を築き上げようという精神的復元力が市民に根強く息づいています。日常生活や文化活動を通じて、そうした市民の輪をアチコチに見ることができるのは希望です。そうした中、石巻市が本計画に込めた思いが、プロポーザル実施要領「事業の背景と目的」に端的に表明されています。それは文化的機能を核としながら、文化活動に縁が薄い人たちにとっても親しみが持てる拠り所にならなければなりません。人々が集い、人々が繋がる場づくりが本計画の中心にあります。

本プロポーザルでは、そうした意味で劇場・博物館という施設機能にとどまらない震災及び震災復興のシンボルとなる地域コミュニティの場づくり、新たなまちづくりの推進力となることが期待されています。このため、施設機能に対する理解・設計技術をベースとしながら、市民と一緒に場づくりを考えてくれる粘り強く、柔軟で対応力のある設計者・設計チームが望まれました。そして、それに相応しい提案を広く募るプロポーザルといたしました。

こうした多くの石巻市民の思いを感じ取ってくださり、第一段階から多くの提出物を準備しなければならないという面倒さにもかかわらず、25者がプロポーザルに参加・提案してくださいました。参加していただいた建築設計者・設計チームのみなさまには心から敬意を表し、感謝申し上げる次第です。みなさまが提案作成のために要した知恵と時間、エネルギーの大きさを思うと頭が下がります。公開プレゼンテーション・ヒアリング対象者には限られた数しか選考できませんでしたが、その他の提案も要領の精神を真摯に汲み取っていただき丁寧に考えられた内容で、それぞれ甲乙つけがたい魅力的な提案が数多くみられました。

ここで全提案について述べることはできませんが、第2段階に進んだ5者の提案について、議論された内容を簡単ですが紹介することで審査委員会の講評としたいと思います。競争的対話方式においても、限られた時間の中で誠実な対応をいただき、審査員の理解を深めることができました。

2. 設計業務委託候補者の選定

1) 最優秀者

1422 ㈱藤本壮介建築設計事務所

最も容積が大きな大ホールを東側に配し、西の住宅地側に対して徐々に低くて静かな機能を配置するという分りやすい構成です。それら機能諸室のヴォリュームを石巻の発展を象徴する旧市街の三角屋根として連続させ、南側の共用ロビーで繋げるという提案です。一見すると、ただ諸室が羅列的に並んでいるように見えますが、実は楽屋が共用ロビー側からも他の用途に使えるようになっていたり、展示室の構成も融通性を持って考えられていたり、浸水災害を考慮して収蔵庫が2階に配置されているなどよく考えられています。東西に長く展開されている共用ロビーは、外部庭・駐車場と関連付けながらの利用にも応えられますし、接地面積も小さく抑えられて

いるなど、丁寧に計画されていることが分かります。競争的対話方式における指摘事項についても、適切に検討されており、今後設計を進めて行く過程において求められる要望・変更などに対しても融通性を持って対応できるものと認められました。以上のような理由から、本計画に最も相応しい提案であると高く評価されました。

一方、大ホールの舞台幅が不足している点、大ホールホワイエ空間が窮屈に感じられる点、ホールを S 造・乾式工法とした時の遮音性能確保や北面のファサード、客席デザインの単調さなどには、今後更に検討すべき課題もあるという意見もありました。しかしながら、提案者には、そうした課題を乗り越えられるだけの十分な能力があり、総合的にバランスの良い魅力的提案であると判断され、最優秀者に選定することがふさわしいとの結論に達しました。

2) 優秀者

1413 小泉アトリエ・RIA・ラムサ設計共同企業体

中央に屋内広場(いしのまきスクエア)を設け、その周囲に大・小ホール、展示、生涯学習機能を渦巻き状かつ立体的に構成するという本提案は、周辺機能の拡張性を受入れることができ、それらの異なる機能を積極的に関係付ける可能性を有しているものとして高く評価されました。それにより、人々の動きに回遊性を発生させるとともに、利用者自身が思い思いの居場所を見つけることができる計画となっています。実現化の過程において想定される要求や変更に対しても、この骨格を大きく変更することなく対応できる融通性がある点が本提案の魅力でもあります。また、接地面積をコンパクトとし、一方の側に寄せて配置するという計画は、当該敷地の地盤に配慮したもので、コスト意識を感じさせる提案として評価されました。車両が乗り入れできる「いしのまきスクエア」は、文化活動の枠組みを超えて様々な利用を可能にするものとしても期待できます。

ただ、3 層目に多くの機能が配置され、そこへのアクセスが他案と比較した場合に遠く感じられること、各機能が内側に向いて関係付けられる分、人々を招き入れるような外周との繋がりがどうしても弱まってしまっているのではないかという懸念が議論となりました。また、仮設本花道を設けるという大ホール客席のデザインに対して違和感があるという意見もあり、最優秀案に一步及びませんでした。

***ここからは受付番号順に記載します。**

1402 (有)エーエーティープラスヨコヅマコト建築設計事務所

文化芸術活動などに関心を持っていない人たちでも気軽に立ち寄ってくれるようなサードプレイス作りを目指すという構想やそれぞれの室・空間が他の用途にも使えるという機能の多重性、地域的な特徴を丁寧に読み解いて建築化するプロセスなど、本提案の特徴として評価されました。大小ホールの間に設けられた第三のホールが本提案のもう 1 つの特徴です。第三のホールは、使い方によってはこれまでにない魅力的な場になると言えますが、こうした大空間を実際に使いこなす難しさやホール本来の搬入作業時には、その場所が限定されてしまうことや大きなガラス面に対する不安感、維持管理費への負担の大きさなど、競争的対話方式での検討でもその懸念が払拭されるには至りませんでした。また、地盤条件から建物の接地面積を小さくすることや具体的な構造検討などコスト意識が感じられる一方で、大きく張り出した展示空間のためにやや大掛かりな構造を必要とする点に齟齬が感じられるという意見もありました。こうしたことなどから、最優秀者や優秀者に及ばない結果となりました。

1405 ㈱三菱地所設計・㈱佐藤尚巳建築研究所設計共同企業体

建物内部の構成、劇場・ホール設計に対する真摯な姿勢・提案は高く評価されました。とりわけ、大小ホールを背中合わせに配置し、楽屋ゾーンを中庭を囲むように構成しながら、共用ロビー(巻石テラス)との間に研修室・事務室を配置する計画は、本提案を特徴付ける魅力です。これにより多様な利用形態と人々の動きを作り出すという内容は秀逸で、審査員を納得させるものでした。劇場に関する計画もバランスの取れた内容で、安定感があるものと高く評価されました。芝生の丘に面した生涯学習各室と作用し合っの賑わいも期待できる提案です。しかしながら、こうした計画を成り立たせるために建物の接地面積が比較的大きく、駐車台数が他案に比べてかなり少なくなってしまうことが議論の対象となり、駐車台数が不足する時には、前後 2 台の縦列駐車に対応するという計画は現実的でないと判断されました。仮に、この縦列駐車方式によらず駐車台数を多く確保しようとする、前述した案の良さが大幅に損なわれてしまう心配も指摘されました。また、博物館の搬入・裏動線計画についての懸念も問題として取り上げられ、ホール設計に関する安定的な魅力はあるものの、総合的に見てみると最優秀者や優秀者に及びませんでした。

1427 田井幹夫・佐野健太・構建築設計共同企業体

芸術活動と市民活動をクロスし、内部空間と外部空間をクロスするという構想のもとに多様な出会いの場を生み出そうとする動線計画が本提案の魅力です。劇場・ホールに関するしっかりとした理解に基づく計画、特徴を持たせた外部庭・駐車場の計画などは他案にないものとして評価されました。一般車両と明確に区画された大小ホールへの搬入エリア・動線と独立した博物館搬入動線の確保など動線計画に優れており、複数の中庭を配して居心地よい場を作り出すと同時に管理区分を行いやすくするといった運営面に考慮した計画内容も高評価につながりました。しかし、こうした良さが、逆に駐車場利用者には不便をきたす心配があるほか、市民ギャラリーがやや孤立気味になるなど展示空間の融通性を狭めてしまっていることや植栽維持が管理者の負担として懸念されるという指摘もあって、最優秀者や優秀者には及ばない結果となりました。

3. 結び

私たち選定委員が関わる以前から、市は基本構想・基本計画を数年掛りで準備・まとめてきました。その内容に基づきプロポーザルが実施された訳です。選定委員会の運営に当たり、亀山石巻市長や関係者のみなさまからまちづくりや本複合文化施設に関する熱い思いを聞く機会がありました。もちろん委員の中からも同様の思いや考えを度々聞く機会があり、本計画に対する期待と課題を委員全員で協議し共有してきました。基本構想・基本計画策定にいたる過程やその内容については、もちろん十分尊重されなければなりません。しかし、時間的経過とともに状況は少しずつ変化してきていることも事実です。少子高齢化、人口減少、産業構造の変化をはじめとした市の中長期的な展望や昨今の建設工事費高騰等を振り返ってみれば、基本計画で示されているような内容をそのまま形にするには無理があるように感じます。コストを考えれば規模縮小を考えざるを得ないでしょうし、施設規模をそのまま維持しようとするればコストアップが避けられないものと思われます。

設計者が選定され、今後実際の設計・建設に向かって進んで行くに当たって、至急その内容を再検討し、将来の石巻市民にも心から喜んでもらえる施設・活動へと繋げて行って欲しいと強く願っています。同時に、建物作りだけが先行することなく、活動目標、運営費や組織作りなどを早い段階から明確にし、運営と施設作りが一

体的に進行できる状況を作り出して行くことが施設設置者である市には求められます。「石巻市文化芸術振興基本方針」(2008 年 4 月)に基づき、大至急この課題に取り組んで欲しいと思います。とりわけ、館長・支配人・劇場技術リーダー等運営の中核的な役割を担う候補者の方々を早い時期に選定・依頼し、施設作りを設計者と一緒に考えて行く体制を作っていくことが望まれます。そうした施設と運営の両輪を時間差を設けず構成し、お互いに協調しながら歩み出すことが、その後の活動をスムーズに推進して行く鍵です。市長を先頭に市民一体となって、本計画の成功に向け今後の課題に勇気と希望を持って取組んで行くことを切に願っています。

最優秀者に選定された設計者・設計チームの方たちにも、是非申し添えたいことがあります。本計画は、石巻市民みんなの思い、東日本大震災で被災したみんなの思いが詰まった施設になります。その思いを確実な姿とするために、市民・行政と真摯に向き合い、優れた性能と魅力的な空間はもとよりメンテナンス性にも秀でた施設の実現にチーム一丸となって努めてくれることを心から願っています。竣工後こそが建築の命の始まりであることを思い、長く生き続けられる、長く市民に愛される施設を実現し、私たち審査員の判断が正しかったことを証明してみせて下さい。

最後になりますが、本プロポーザルに参加していただいた各設計チーム全員の方たちの熱意と石巻市に対する応援に対して、心から敬意と感謝を申し上げます。また、みなさまの更なるご発展とご活躍を祈念いたします。誠にありがとうございました。

(仮称)石巻市複合文化施設基本設計業務プロポーザル選定委員会

委員長	日本大学理工学部特任教授 本杉 省三
職務代理	東北大学大学院工学研究科・工学部教授 小野田 泰明
委員	宮城県美術館館長 有川 幾夫
委員	いわき芸術文化交流館アリオス支配人 大石 時雄
委員	元弘前大学文学部教授 藤沼 邦彦
委員	石巻市文化協会会長 西條 允敏
委員	石巻市教育委員会教育長 境 直彦